

子ども多文化共生センター通信(テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

第86号

発行元 子ども多文化共生センター (TEL 0797-35-4537)
発行日 2023(令和5)年3月24日(金)
ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



テラたま
(イメージキャラクター)

2022年度も早いもので残りあとわずかとなりました。今年度は3年にわたってまん延した新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着きを見せ、ひさしぶりに復活した行事、イベントも少なからずあり、コロナ前の日常が戻つつあります。そのような中、12月に行われたサッカーW杯が大変な盛り上がりを見せ、まだその余韻が覚めるまもなく、先日開催された野球世界一決定戦WBCも大いに盛り上がり、スポーツをとおして世界とのつながりを実感した人も多いのではないのでしょうか。この3年間不自由な学校生活が続いてきましたが、今月13日からはマスクの着用が個人の判断に委ねられることとなり、ようやく出口が見えてきました。来年度は、ウィズコロナの意識をしっかりと持って、ここしばらく我慢してきたさまざまな体験活動等に積極的に取り組んで、子どもたちがのびのびと安心して日常生活を送れるように願っています。

『多文化共生社会をどう捉えるか』

(宇都宮大学国際学部編 下野新聞新書 2018年10月17日初版第1刷発行)
宇都宮大学国際学部は2017年4月に学科統合の改組を行い、多文化共生社会実現のための21世紀型人材育成を目指している。多文化共生はお互いの国籍や民族等の違いを認め合い、多様な文化的背景をもつ人々と共に生きていくことを意味し、そのためには、言語、民族、宗教等、様々な分野についての異文化理解が必要不可欠である。この本は宇都宮大学国際学部に関係のある34名の教員がそれぞれの専門の立場から異文化理解に基づいた多文化共生についての考えを書いている。ある人はスリランカの紅茶の視点から、またある人はハリソンフォード主演で大ヒットしたSF映画『ブレードランナー』を観て……。34のエッセイひとつひとつがどの地域がどのように多文化共生にかかわっているか興味を持って読める1冊である。

2022年度多言語相談員派遣事業を振り返って

今年度4年目になる多言語相談員派遣事業ですが、おかげさまで、県内のたくさんの小中高、特別支援学校に多言語相談員を派遣し、日本語の理解が十分でない保護者の方を支援させていただきました。この事業は、保護者面談、教育相談等、保護者への通訳を必要とする場面に、子ども多文化共生サポーターのうち、派遣を希望する方を「多言語相談員」として、県内の通訳を必要とする学校へ派遣させていただきます。派遣校数は197校(のべ)、派遣時間は260時間(のべ)、13言語になっています。(3月17日現在)ちなみに、昨年度は178校(のべ)、296時間(のべ)、11言語でした。学校現場からは、「大変有意義な時間をもつことができました。」「今後重要となってくる進路について確認することができてよかった。」「学級担任と保護者の間に入って通訳していただくことによって円滑に話し合いが進んだ。」「保護者の不安を聴き取ることができ、教育相談に役立った。」「非常にきめ細かな対応をしていただき、保護者に丁寧に説明することができた。」など、多くの感謝の言葉をいただいています。引き続き来年度もこの事業を児童生徒の支援のためにご活用ください。

Information

★第1回子ども多文化共生サポーター交流会(サポーターネット)を行いました

2月28日(火)14:00~16:00当センターにおいて、7名来所、7名オンラインの合計14名のサポーターが集まって、子ども多文化共生サポーター交流会(サポーターネット)が行われました。コロナ禍で3年ぶりの開催となり、日頃の悩み、困っていること、うまくいっている支援、また嬉しかったことなどそれぞれの日頃の活動を振り返りながら共有しました。



交流会が終わった後も話は尽きることなく、次の再会を楽しみに名残を惜しみながらの散会となりました。「様々な言語のサポーターの方と話ができ楽しい時間をもつことができた。」「みなさんの意見を聞かせていただきとても参考になった。」「日頃思っていることを共感してもらって元気をもらえた。今日のような会をまた開いていただきたい。」などの前向きな感想をいただき、実り多い交流会になりました。(第2回は3月24日(金)14:00~16:00開催予定)

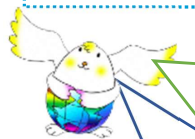
★センター所蔵資料の展示を行っています

3月1日(水)から30日(木)までの1ヶ月間、神戸市営地下鉄県庁前駅のショーウィンドウにセンター所蔵の資料を展示しています。スペースの都合上、民族衣装、民族楽器などごくごく一部を展示しただけですが、通勤・通学で行き交う人々の中には足を止めて興味深く見入る人の姿も見受けられます。近くにお越しの際は、是非ご覧ください。



センターには世界各国の資料がたくさんあります。子ども多文化共生教育に役立つ書籍などもあります。貸し出しもしていますので、是非ご活用ください。

また、民族衣装、世界各地の楽器、玩具などお持ちでしたらセンターに寄付をお願いします。



テラたまのつぶやき

サポーターさんが支援に行っている学校の先生がね
「サポーターさんが、日本語がわからなくて困っている子どもにもすぐに母語に訳すのではなく、まずは子どもの知っているやさしい日本語で支援をしてくれるから子どもの日本語の力がぐんぐん伸びてる。本当にサポーターさんにきてもらってよかった!!」って話してくれたよ。うれしいね!

研修会やイベントの情報をTwitterで紹介してるよ。センターのHPからも見に来てね!
(@hyogo_mc_center) https://twitter.com/hyogo_mc_center

子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町1-2

TEL: 0797-35-4537 FAX: 0797-35-4538 E-mail: mc-center@hyogo-c.ed.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

外国人児童生徒の支援、子ども多文化共生教育に関わることなどについて、お気軽にご相談ください。

来年度も子ども多文化共生センターをよろしくお願いたします。